

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	4学年
使用教科書	山川出版社『歴史総合近代から現代へ』				
副教材等	山川出版社『歴史総合資料集』 山川出版社『歴史総合要点チェック』				

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、

- ① 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解させる。
- ② 近代化に伴う生活や社会の変容について考察する。
- ③ 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察する。
- ④ グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察する。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解しようとしている。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとしている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けようとしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めようとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとしている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけようとしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・課題考査、定期考査 ・授業中の取組 ・提出物、課題などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題考査、定期考査 ・授業中の取組 ・提出物、課題などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題考査 ・授業中の取組 ・提出物、課題などの内容の確認などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業 時数	学習活動 (指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	第I部 近代化と私たち 近代化への問い 第1章 結びつく世界 1 アジア諸地域の繁栄と日本	1 2 3	・交通と貿易に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見通しをもつ。 ・産業と人口に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見通しをもつ。 ・権利意識と政治参加や国民の義務に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見通しをもつ。 ・16世紀にはアジア各地で大帝國が成立し繁栄していたこと、同時期にヨーロッパ各国がアジアに進出し、世界的な規模で経済が発展していたことを理解する。 ・東アジアに軍事政權が成長し、清や江戸幕府が成立したこと、そうした政權の統治法や経済成長について考察する。	a b c	課題考査 定期考査 課題考査 定期考査 授業の取り組み 振り返りシート
5	2 ヨーロッパにおける主權国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 アメリカ独立革命とフランス革命 3 19世紀前半のヨーロッパ	4 5 6 7 8 9 10	・ヨーロッパで成立した主權国家と主權国家体制について、その特徴を理解する。 ・ヨーロッパ人の海外進出について理解し、その影響について考察する。 ・産業革命にいたるヨーロッパ経済の大きな流れを理解する。 ・産業革命によるヨーロッパ各国内の変化や、世界的な影響について考察する。 ・七年戦争の勝利後におけるイギリスの北アメリカ植民地の拡大と変遷を理解する。 ・アメリカ独立革命とその理念を理解し、その後の世界にあたえた影響を考察する。 ・フランス革命の経過と革命の成果を理解し、その後の世界にあたえた影響を考察する。 ④ナポレオン戦争の経過と、ヨーロッパにおける変化を理解する。 ・ウィーン会議の内容とウィーン体制の特徴を理解する。 ・自由主義の運動と1848年にヨーロッパでおこった一連のできごとを理解する。 ・ナショナリズムの特徴とイタリア・ドイツの國家統一への動き、フランスの二月革命後の国内状況、イギリスの諸改革などを理解する。	a b c	課題考査 定期考査 課題考査 定期考査 授業の取り組み 振り返りシート
6	4 19世紀後半のヨーロッパ 5 19世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容と南・東南アジア	11 12 13	・クリミア戦争の概要をとらえ、その経過や重要な点を理解する。 ・イギリスとフランスの国内状況をとらえ、対外政策の概要を理解する。 ・イタリアとドイツの統一・國家形成の過程をとらえ、時系列こそつ	a	課題考査 定期考査

	<p>の植民地化</p> <p>7 中国の開港とにほんの開国</p> <p>第3章 明治維新と日本の立憲体制</p> <p>1 明治維新と諸改革</p>	<p>14</p> <p>15</p> <p>16</p> <p>17</p>	<p>て理解する。・ビスマルク外交について、その基本方針を理解し、具体的こどのような国と同盟関係を結んだのかを考察する。・ラテンアメリカ諸国が、スペインやポルトガルの植民地から独立を達成した経緯を理解する。・独立達成後のアメリカ合衆国が、領土を西方に拡大していった過程を理解する。・合衆国史上最大の内戦である南北戦争について、その原因と経過を考察する。・「東方問題」とはどのような問題であるかととらえ、その概要を理解する。・イギリスによるエジプト進出の全体像を把握し、その過程について理解する。・イギリスによるインド植民地化の全体像を把握し、その過程について理解する。・ヨーロッパ列強による東南アジア植民地化の全体像を把握し、その過程について理解する。・19世紀半ばの中国をゆるがした太平天国の乱と、それに続く清朝の改革のあり方について考察する。・欧米諸国の通商要求に対する江戸幕府の対応を理解し、開国にいたる経緯を理解する。・大政奉還のねらいをふまえ、明治新政府の成立や戊辰戦争の展開を理解する。・五箇条の誓文に示された新政府の国家方針を理解し、版籍奉還と廢藩置県の歴史的意義を考察する</p>	<p>b</p> <p>c</p>	<p>課題調査</p> <p>定期調査</p> <p>授業の取り組み</p> <p>振り返りシート</p>
7	<p>2 明治初期の対外関係</p> <p>3 自由民権運動と立憲体制</p> <p>第4章 帝国主義の展開とアジア</p> <p>1 条約改正と日清戦争</p> <p>2 日本の産業革命と教育の普及</p> <p>3 帝国主義と列強の展開</p>	<p>18</p> <p>19</p> <p>20</p> <p>21</p> <p>22</p> <p>23</p>	<p>・欧米諸国との外交関係に留意しながら、日本が欧米の新技术の導入をどのように進めたかを理解する。・琉球処分や北方開発などに留意しながら、日本が領土を画定させていった経緯を理解する。・自由民権運動がおこった背景および運動の高まりや担い手の広がりについて理解し、それに対する政府の対応を理解する。・松方財政について、新たな財政政策が取られた背景や、政策の内容を理解し、それが自由民権運動にどのような影響をあたえたかを理解する。・大日本帝国憲法の成立過程をふまえ、憲法の内容を理解し、その特徴を考察する。</p> <p>・19世紀末の朝鮮国内の動きに対して、日本と清がどのように関与したか、また朝鮮をめぐる両国が対立するに至った過程について理解する。・条約改正が成功した国際的な背景を理解し、その交渉経過や、締結された条約内容について考察する。・日清戦争がおこった背景を理解し、戦争の推移・結果や、その後の日本と清・朝鮮に対する影響について考察する。・日本の産業革命の展開や、そのなかで政府が果たした役割について理解する。・紡績業・製糸業の発展について理解し、その特徴を考察する。・帝国主義とは、どのような状況で、どのようにして生まれたのか、その後の世界にどのような影響を与えたかを理解する。・アメリカ合衆国が工業力で世界第1位となり、帝国主義的な政策によって領土を拡大していった過程を考察する。・アフリカ大陸が、ヨーロッパ列強によって急速に植民地化されていく過程を理解する。・ヨーロッパ諸国の長きにわたる植民地支配が、その後のアフリカの発展に深刻な影響をあたえたことを理解する</p>	<p>a</p> <p>b</p> <p>c</p>	<p>課題調査</p> <p>定期調査</p> <p>課題調査</p> <p>定期調査</p> <p>授業の取り組み</p> <p>振り返りシート</p>
8	<p>4 世界分割と列強の対立</p>	<p>24</p>			
9	<p>5 日露戦争とその影響</p> <p>近代化と現代的な諸課題</p> <p>第II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>国際秩序の変化や大衆化への問</p> <p>第5章 第一次世界大戦と大衆社会</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p>	<p>25</p> <p>26</p> <p>27</p> <p>28</p> <p>29</p> <p>30</p>	<p>・列強による中国分割や東アジア情勢の変化を年表にまとめ、日露戦争がおこった理由を理解する。・日露戦争後の国際関係の変化に留意して、日本が韓国植民地化と満州支配を進めた経緯を考察する。・清朝の終焉と中華民国の成立の意義を理解し、辛亥革命の流れについて考察する。・自由・制限の観点から、これまでの学習を振り返り、諸資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現する。また、近代化と私たちが表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。・国際関係の緊密化による</p>	<p>a</p> <p>b</p> <p>c</p>	<p>課題調査</p> <p>定期調査</p> <p>課題調査</p> <p>定期調査</p> <p>授業の取り組み</p> <p>振り返りシート</p>

			<p>戦争や貿易の変化に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。・アメリカ合衆国とソ連の台頭に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。立てて、学習の見直しをもつ。</p> <p>・バルカン半島の複雑な状況を理解し、その影響と第一次世界大戦の開戦について多面的・多角的に考察する。・総力戦による社会の変化を理解する。・日本の参戦以後、日中両国間でどのような動きがあったのかを考察する。・戦時外交とアメリカ合衆国の参戦による戦争の経過、および大戦による国際社会の変化を理解する。・ロシア革命の経緯とその思想を理解し、革命とソ連の成立が国際社会に与えた影響について考察する。・ロシアの内戦と、日本のシベリア出兵の意図を理解する。”</p>		
10	<p>2 国際平和と安全保障</p> <p>3 アジア・アフリカ地域の民族運動</p> <p>4 大衆消費社会と市民生活の変容</p> <p>5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加</p> <p>第6章 経済危機と第二次世界大戦</p> <p>1 世界恐慌の派生と各国の対応</p>	<p>31</p> <p>32</p> <p>33</p> <p>35</p> <p>36</p> <p>37</p> <p>38</p>	<p>・パリ講和会議とヴェルサイユ条約の内容を整理し、国際連盟の限界を理解する。・ワシントン会議の内容を整理し、ワシントン体制で成立した国際秩序の特徴を理解する。・第一次世界大戦後に民族運動が活発になった要因を理解し、その影響について考察する。・東アジアにおける民族運動を整理し、中国における国民党と共産党が果たした役割について考察する。・アメリカで大量消費社会が成立した要因をふまえて、大量消費社会の特徴を理解する。・アメリカ社会の大衆化と保守化を理解し、世界におよぼした影響を考察する。・日本における新たな中間層の出現と都市化を理解し、人々の生活の変化について考察する。①大正政変がおこった背景を整理し、その後の政治の推移を理解する。・大戦景気がおこった背景を整理し、その特徴について理解する。・米騒動などの民衆運動が発生した背景や理由をふまえて、民衆のエネルギーが政治にどう反映されたかを考察する。・大正デモクラシー下での普選運動の背景や、労働運動・女性運動・部落解放運動など様々な社会運動の展開について、背景と関連づけながら考察する。・恐慌が世界に波及した要因を追究し、その後の世界にあたえた影響を理解する。・各国が金本位制を離脱したことの意味を理解し、ブロック経済形成の目的と影響について考察する。・ニューディール政策の内容とその結果を理解し、アメリカの外交政策の変化を年表にまとめ、考察する。</p>	<p>a</p> <p>b</p> <p>c</p>	<p>課題 定期 課題 定期 授業の 振り返り シート</p>
11	<p>2 フェシズムの台頭</p> <p>3 日本の恐慌と満州事変</p> <p>4 日中戦争と国内外の動き</p> <p>5 第二次世界大戦と太平洋戦争</p> <p>第7章 戦後の国際秩序と日本の改革</p> <p>1 新たな国際秩序と冷戦の始まり</p> <p>2 アジア諸地域の独立</p>	<p>39</p> <p>40</p> <p>41</p> <p>42</p> <p>43</p> <p>44</p> <p>45</p> <p>46</p>	<p>・フェシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。・ヒトラーとナチ党がドイツで政権を獲得し、独裁体制を確立した経緯とその結果について考察する。・ドイツの拡張主義的な対外政策と他国の反応から、第二次世界大戦発生の原因を理解する。・金融恐慌がおこった背景を考察し、その特徴について理解する。・協調外交をすすめた背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。・満州事変がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を年表にまとめ考察する。・五・一五事件がおこった背景や理由をふまえて、その後の軍人の行動が、政治にどう影響したかを考察する。・二・二六事件がおこった背景を考察し、その後の政治や軍部の動きの推移について理解する。・日中戦争がおこった背景を理解し、その後の国際社会に与えた影響を考察する。・日本が中国に侵攻して、軍がどのような行動をとっていたか理解し、中国の人々はどのような影響を受けたかについて考察する。・第二次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。・日本とアメリカの対立は、どのような背景から生じたか、日米関係を基軸として考察する。・日本国内における戦時下での国民の生活や、中国・朝鮮から動員された人々の生活について考察する。・第二次世界大戦後の国際社会が、</p>	<p>a</p> <p>b</p> <p>c</p>	<p>課題 定期 課題 定期 授業の 振り返り シート</p>

			どのようにして新たな国際秩序を構築したかを考察する・冷戦について、資本主義陣営と社会主義陣営にわかれた経緯を理解し、米ソが二大国となったことを理解する。・朝鮮戦争についての背景・過程を理解して、東アジア諸地域に及ぼした影響を考察する。		
12	3 占領化の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 第Ⅲ部 グローバリ化と私たち グローバル化への問い 第8章 冷戦と世界経済 1 集団防衛体制と核開発	47 48 49 50 51 52	・連合国による日本占領の方法や特徴について理解する。・連合国による日本の民主化政策について理解し、その特徴について考察する。・日本国憲法の制定過程を理解し、その特徴について考察する。・連合国による日本の占領政策の転換について整理し、それが日本の政治・経済にどのような影響を与えていったかを考察する。・日米安全保障条約の内容を理解し、冷戦の状況下で日本がどのような目的をもってアメリカとの安保条約を締結したのかを考察する。・対立・協調の観点から、これまでの学習を振り返り、諸資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現する。また、国際秩序の変化や大衆化と私たちが表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。・平等・格差の観点から、これまでの学習を振り返り、諸資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現する。また、国際秩序の変化や大衆化と私たちが表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。・冷戦下での国際関係と各国の取り組みに関する資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。・グローバル化のなかで、人口や資本の移動が各国や国際社会に与えた影響に関する資料をもとに問いを立てて、学習の見直しをもつ。・西側陣営が各地に集団防衛機構を構築した目的を理解する。・東側陣営がワルシャワ条約機構を築いた背景を理解し、世界におよぼした影響を考察する。	a b c	課題考査 定期考査 課題考査 定期考査 授業の取り組み 振り返りシート
1	2 米ソ両大国と平和共存 3 西ヨーロッパの経済復興 4 第三世界の連携と試練 5 55年体制の成立 6 日本の高度経済成長 7 核戦争の恐怖から軍縮	53 54 55 56 57 58	・1950年代のアメリカ社会の特色を理解し、「軍産複合体」について考察する。・ソ連の「雪どけ」と西側への影響を理解し、東ヨーロッパ世界の動揺や中ソ関係の悪化を考察する。1960年代の米ソ関係の冷え込みから「ベルリンの壁」構築について理解する。・第二次世界大戦後の西ヨーロッパの地位の低下と、各国の戦後復興の状況を理解する。・西ヨーロッパが地域統合に取り組んだ背景と、ECとEFTAの形成について理解する。・国際社会で「第三世界」が形成された背景と、その活動について理解する。・インドと中国が、チベットの独立をめぐる対立し、軍事衝突にいたった経過について理解する。・高度経済成長の契機となる特需景気を理解し、その後の経済成長がどのように展開するか考察する。・国際競争力を強化していくために、日本経済がはこなした改革を考察する。・1960～70年代に東ヨーロッパとの緊張緩和をめざすフランスとドイツがとった外交政策について理解する。	a b c	課題考査 定期考査 課題考査 定期考査 授業の取り組み 振り返りシート
2	8 冷戦構造のゆらぎ 9 世界経済の転換 10 アジア諸地域の経済発展と市場開放 第9章 グローバル化する世界 1 冷戦の終結と国際情勢 2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺	59 60 61 62 63 64	・中ソ対立が中国におよぼした影響を考察し、プロレタリア文化大革命の経過とそれが中国社会に及ぼした影響について理解する。・チェコスロヴァキアで「プラハの春」と呼ばれる改革運動が発生した背景を考察し、ソ連のブレジネフ政権がこれを弾圧した経過と理由について理解する。・ベトナム戦争発生背景とその経過について理解する。・1970年代の世界経済の転換の背景を理解する。・アメリカの金ドル本位制の停止が、ドル＝ショックと呼ばれるほど衝撃的であった理由を理解し、その後の世界経済に及ぼした影響について考察する。・石油危機が発生した背景と、それが世界経済に及ぼした影響を理解し、人々の価値観がど	a b c	課題考査 定期考査 課題考査 定期考査 授業の取り組み 振り返りシート

			<p>のように転換したかを考察する。・開発独裁と呼ばれる政治体制の特徴について理解し、その利点や問題点について考察する。・文化大革命後の中国で始まった、改革開放路線について理解する。・ソ連のアフガニスタン侵攻により再び東西の緊張が高まっていく経過を理解する。②チェルノブイリ原子力発電所の事故に象徴される、ソ連の沈滞の原因を理解する。・ゴルバチョフの「新思考外交」によって、冷戦が終結し、東欧革命が発生した経過を理解する。・ゴルバチョフが主導したペレストロイカと呼ばれるソ連の社会主義体制の抜本的な改革の過程について理解するとともに、改革の実施にもかかわらずソ連が崩壊した理由について考察する。</p>		
3	<p>4 地域紛争の激化</p> <p>5 国際社会のなかの日本</p> <p>第10章 現代の課題</p> <p>1 現代世界の諸課題</p> <p>2 現代日本の諸課題</p> <p>現代的な諸課題の形成と展望</p>	<p>65</p> <p>66</p> <p>67</p> <p>68</p> <p>69</p> <p>70</p>	<p>・1980年代末からの、パレスチナ問題の解決に向けての動きとその結果について理解する。・アメリカの中東政策への反感から、同時多発テロ事件が発生し、対テロ戦争と呼ばれる新しい戦争が始まる経緯を理解し、その影響について考察する。・イラク戦争の経過と結果について理解する。・長期安定政権が維持された55年体制が崩壊にいたった経緯について理解する。・バブル経済の崩壊以降、現在にいたる日本経済低迷の経緯について理解する。・地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、その要因を理解し、どのように対応していけばよいかを考察する。・人権問題について、男女間の不平等、男女差別とは異なる性的差別の問題を理解し、どのように対応していけばよいかを考察する。・自然環境問題について、持続可能な開発という考え方を考察し、現代の世代の幸福と将来の世代の幸福をともに追求できる対応を考察する。・現代日本の課題である人口減少にどのように対応していけばよいかを考察する。・歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。③現代的な諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。</p>	<p>a</p> <p>b</p> <p>c</p>	<p>課題考査</p> <p>定期考査</p> <p>課題考査</p> <p>定期考査</p> <p>授業の取り組み</p> <p>振り返りシート</p>

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

- ・週末課題としてその週に学習した内容を「歴史総合要点チェック」などで復習し、週明けに提出。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

「歴史総合」という科目にはいくつかの特徴があります。その1つは日本史と世界史を関連づけ、世界史のなかで日本史をとらえようとする点、第2に古代からの通史でなく、おもに近代・現代を扱うという点、第3に現代に生きる私たちの社会のあり方や直面する課題について考えるという観点から歴史をみようとする点です。たんに多くの事実を暗記するだけでなく、様々な歴史上の問題を関連づけて、現在の問題はなぜ生まれてきたのか、その道筋をたどることができるような授業を心がけたいと思います。ともに頑張りましょう。(担当：佐藤 優之)